

大小に多方面から善意

折り鶴や百科事典の寄贈



大船渡市立大船渡小学校(柏崎正明校長、児童238人)にこのほど、アメリカの小学生から2000羽以上の折り鶴が、薬剤師のグループからは「学習に役立つように」と本が贈られた。折り鶴はニューヨークの公立小学校レゴ・パーク・スクールPS 139Qの児童が折ったもの。同市猪川町出

身で、息子が同校へ通うという西村純さんが学校職員や日本人保護者の間で話し合い、折り鶴制作を決めたという。同校では4月8日に

義援金を募るためのイベントを実施。これに先駆けて、千羽鶴の意味や折り方を教えるワークショップを行い、3～6年生は折り鶴を、幼稚園～2年生までは鶴の塗り絵にメッセージを書き込んだ。初めて作ったという子供たちがほとんどながら、折り鶴は2645個、絵は414枚にもなった。西村さんは同校への手紙の中で「日本人の子供たち、現地の子供たち、先生や保護者の皆さんも、被災地のことをとても心配しております」と記し、遠くアメリカで

アメリカから届いた折り鶴を広げる子どもたち(左)薬局・薬店関係者からは百科事典などが贈られた(右)大船渡小

も日本に思いを馳せていることを伝えた。同校6年の前川瞳真君は「ぼくは鶴が折れないので、アメリカの子供たちがこんなにくさん折ってくれてびっくり。手紙を書いたり、コツコツ恩返ししたい」と話した。また、同市盛町にある「くすりのタカギ」の高木久子さんを通じて、全国の薬局・薬店で働く仲間たちから本が寄贈された。

届いたのは、調べ学習に役立てられる「総合百科事典ポプラディア」(15万円相当)をはじめ、文学全集など約100冊。宮崎県の高丸幸市さんから薬局関係者とその顧客が協力したという。

本の表紙裏には、ラミネート加工された応援メッセージが貼り付けられており、本を寄託された高木さんも「細かい心遣いに感激です」と話していた。